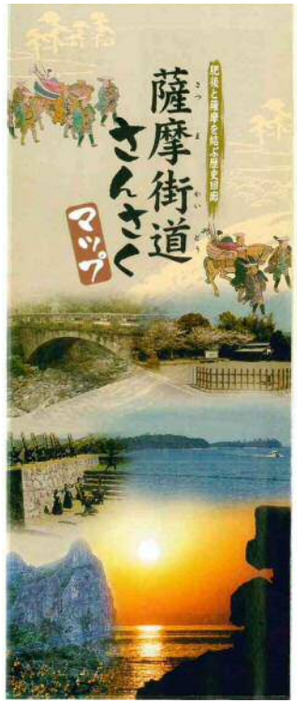

薩摩街道さんさくマップ

肥後と薩摩を結ぶ歴史回廊

薩摩街道を歩く。

～歴史の道をたどって～

薩摩街道とは肥後藩熊本城下の札の辻と薩摩藩鶴丸城下の西田橋を結ぶ街道のことで、明治時代に国道が建設されるまで、南九州の陸上交通の大動脈でした。

鹿児島では城下から3つの街道があり、それぞれ筋と呼ばれていました。宮崎高岡を通る日向高岡筋、加治木から大口を経て水俣へ通じる大口筋、そして川内から出水へと向かう出水筋（薩摩街道）です。

出水筋は参勤交代の道として利用されており、大河ドラマでも有名な天璋院篤姫もこの道を通って江戸へと向かいました。

熊本には四街道あり、札の辻を起点として豊前・小倉に至る豊前街道、豊後竹田に至る道で九州を横に結ぶ豊後街道、日向・延岡へ至る日向往還、水俣を経て薩摩につながる薩摩街道とそれぞれ呼ばれていました。薩摩街道は主要な幹線として古くから往来が盛んで、時には肥後と薩摩の攻防の歴史の舞台となりました。

歴史が下り、西南戦争の時は薩軍の北上ルートになりました。

また、同時に文化、風俗、物資などの異文化に接することができる交流の道でもありました。

九州平定の豊臣秀吉、参勤交代の薩摩藩主島津氏、明治維新前後の西郷隆盛、大久保利通など、偉人達が残した足跡をたどりながら、その交流、攻防の歴史をたどってみましょう。

薩摩街道ルート（八代～川内まで）

八代 ―（約10km）― 日奈久 ―（約12km）― 田浦 ―（約7km）― 佐敷 ―（約10km）― 津奈木 ―（約7km）― 水俣 ―（約5km）― 袋 ―（約8km）― 大口 ―（約4km）― 出水 ―（約11km）― 野田 ―（約7km）― 阿久根 ―（約8km）― 高城 ―（約11km）― 西方 ―（約13km）― 川内 ―（約12km）― 上川内

【景行天皇と田の浦】

【古事記】【日本書紀】に記される第12代の天皇である景行天皇は、大和朝廷を拡げ、数々の伝説・逸話を残しています。熊襲征伐の折、八代の木葉に向けて船出し、芦北町の田浦等周辺の入江に停泊されたことから、田の浦という名がつけられ、歴史ロマンを語りかける地名となっています。

景行天皇が使用したとされる衣服。

日奈久温泉は神のお告げで発見されました。

八代
九州新幹線
十五里木碑
十四里木碑
日奈久
日奈久IC
肥後おけいこ鉄道
八代海（不知火海）
石坂川
鼎
鼎駅
鼎橋
佐敷太閤記の里
佐敷城跡
佐敷
佐敷駅
佐敷川
佐敷太閤記の里
佐敷城跡
佐敷駅周辺
戸浦
戸浦口
人吉街道分岐点
のこぎり家並
佐敷太閤記の里
佐敷城跡
薩摩街道
佐敷太閤記の里
佐敷城跡
佐敷太閤記の里
佐敷城跡
佐敷太閤記の里
佐敷城跡